

使用済燃料の乾式貯蔵、避難に関する要望書

宮津市長 城崎雅文 様

晩秋の候、貴職におかれましては日頃より地域住民の暮らしと安全のためにご尽力いただき、誠にありがとうございます。

去る 2 月 26 日には、ご多忙にもかかわらず当会ならびに「避難計画を案ずる関西連絡会」による要望書の申し入れ・懇談を受けて頂き、率直な意見交換ができました。有難うございます。この懇談で確認し合った課題をさらに実効性のあるものにするため、また「乾式貯蔵施設建設」が差し迫っている中で、次の 5 点を要望いたします。

1, 7 市町協議会において、乾式貯蔵や避難計画に係る住民説明会の開催を関西電力に求めてください。

2 月の懇談では、防災課として次の考えを表明され、住民と共に考えて頂けているとうれしく思いました。

- ①原発敷地内乾式貯蔵は、京都府と関西電力との安全協定の第 2 条 2 項に「原子炉施設の重要な変更について関西電力に意見を述べるができる」とある『重要な変更』にあたる。
- ②約 8 割もの人が、関西電力の原発敷地内乾式貯蔵の計画は「知らない」と回答し、乾式貯蔵や避難計画について住民に「説明すべき」とのアンケート結果を、住民の声として尊重する。
- ③何年保管するのか等、先が見えない乾式貯蔵計画について、関西電力は説明すべき。

以上の考えの元、7 市町協議会において関西電力に対して乾式貯蔵や避難計画に係る住民説明会の開催を求めてください。

2, 核のゴミ捨て場となり、原発の運転継続につながる敷地内乾式貯蔵施設の計画を中止するように関電に求めてください。

関西電力が先日新聞折込みをしたチラシによると「乾式貯蔵施設の建設で、高浜原発は 60 年稼働することができるようになる」とありました。ここ宮津市は高浜原発から 30 キロ圏であり、過酷事故時には全市民が屋内退避さらに避難をしなければなりません。「安全だ！」と喧伝されていた福島事故をうけて、規制庁でさえ「原発は安全と言い切れない」と言っています。もうすぐ 50 年を迎える老朽原発がさらに 10 数年、事故が起こらない保障は全くないばかりか、無害化するのに何万年もかかる核のゴミがますます貯まっています。

核のゴミの最終処分の仕方場所も決まっていな中で、今とるべきことは、原発の核のゴミをこれ以上出させないことではないでしょうか。宮津市として敷地内乾式貯蔵施設の計画中止を、関電に求めてください。

3, 避難も屋内退避も困難を極めた能登半島地震の教訓を踏まえ、高浜原発の運転に反対を表明してください。

地震と津波で福島事故は起こりました。能登半島地震での住民の辛酸をなめるご苦労に心を痛めながらも、「珠洲に原発が建ってなくて良かった！」と、つくづく思いました。自然災害は防ぎようがありませんが、せめて原発事故との複合災害にならないよう、原発の運転は止めることができます。宮津市として高浜原発の運転に反対を表明してください。

4, 安定ヨウ素剤について

- ① 安定ヨウ素剤の働きと効果、服用のタイミング、副作用や服用できない人の事前のチェックなどを学ぶ機会をもってください。
- ② 希望者には、安定ヨウ素剤を薬局で受け取れるようにしてください。

国は、安定ヨウ素剤の事前配布は自治体の判断でできるとしていますが、宮津市は「適切な管理への懸念、紛失のリスクなどの懸念」を上げ「今のところ事前配布は行わない」と言われました。被ばくをできるだけ防ぐ唯一の手段が安定ヨウ素剤の服用です。住民だけでなく災害時には最前線で働く職員の命と健康を守るために、ぜひとも安定ヨウ素剤についての学習会をもってください。そして、希望者には、安定ヨウ素剤を薬局で受け取れるようにしてください。

5, 原子力災害とはどういうものか、原子力災害が起こった時どうすればよいのか、住民への周知を図るために「マイ・タイム・ライン」の原子力災害版を作ってください。

放射線防護のための服装をはじめ、どのように避難するのか住民がイメージできるように「マイ・タイム・ライン」の原子力災害版を作ってください。

2025年11月27日

原発なしで暮らしたい宮津の会
避難計画を案ずる関西連絡会

連絡先：原発なしで暮らしたい宮津の会（吉田真理子）